

特集

IT を活用した保健活動

保健指導における IT の活用 ————— 村瀬澄夫
テレメンタリングによる保健指導方法 ————— 酒巻哲夫

実践事例

- ① IT を用いた特定保健指導プログラム
げんき！ 家族応援団 ————— 石井多樹
- ② IT を活用した「まちの保健室」(バーチャル相談室) ————— 杉原治美・多田敏子
- ③ IT 活用歩数計による健康づくり ————— 井上純子・正藤露子
- ④ IT を取り入れた健康運動教室
e-wellness システムの活用 ————— 坂井紀子
- 行政に求められるホームページ作成の基本 ————— 中西好子

編集後記

● 灯台下暗し、とはまさにこのこと。私的な話で恐縮だが、今月の巻頭フォトで紹介した牛久市は私の地元である。取材先も、自宅から車で数分の距離だった。こんなに素晴らしい介護予防事業が展開されているとは、全く知らなかった。いずれは地元に戻ろうと思っている身としては、安心して老後を送れそうである。考えてみれば、保健師に関する雑誌の編集者でありながら、自分が住んでいた地域には何人の保健師がいて、どのような保健事業が展開されているのかということは案外知らないものである。まずは身近なところから知っていこうと反省。

さて、牛久沼の「かっぱ伝説」にちなんで命名された「うしくかっぱ体操」であるが、その名の通り、参加者は活発そのもの。本当に介護予防の対象者なのかと疑うほど、見た目がお若い。表情の豊かさは、事業効果をそのまま映し出している。

取材当日にお世話になった理学療法士の野口さん、保健師の渡辺さん、これからも牛久の介護予防を盛り上げていてください！ いずれお世話になるときは、ぜひ宜しくお願いします……。(和田)

● 今号の特集を企画するにあたって、京都で開催されたセーフティプロモーション学会を取材させていただきました。京都御所に程近い会場には、保健師さんをはじめとする公衆衛生の専門家はもちろん、医療、教育、消防、警察など各分野の関係者や、法律家、住民組織で活躍する主婦の方などさまざま。多分野・多機関連携が特徴だとは伺ってはいましたが、実際目にするにとっても迫力がありました。

そのなかでも目を引いたのは、地域住民として活動されている方々。怠け者の自分を恥ずかしく思いつつ、正直、どうしてそこまでできるのだろうか？ と思ってしまいました。でもよく考えてみると、「病気や怪我の心配をせずに安心して暮らしたい」という気持ちはとても自然なものです。そしてそれは、保健活動が目指すものにとっても近いのではないのでしょうか。

「地域力の再生」や「住民主体の活動」という言葉、いまいち具体像が描けずにはいましたが、実はそれって、「地域住民が望むこと」と「専門家が目指すこと」の共通点に気づくことから始まるのかもしれない……、などと帰りの新幹線のなかでうとうとしながら思いました。(栗原)

保健師ジャーナル 第63巻12号 2007年12月10日発行(毎月1回10日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd, 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2007, Printed in Japan

1部定価1,313円(本体1,250円+税5%) 2007年年ぎめ予約購読料15,000円(税込、送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部(03)3817-5657 社内案内(03)3817-5600

保健師ジャーナル編集室(03)3817-5774 電子メールアドレス hokenshi@igaku-shoin.co.jp 担当/和田・栗原・安部

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS (株)日本著作出版権管理システム委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670、FAX03-3815-8199)の承諾を得てください。1348-8333/07/¥250/論文/JCLSが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCLS宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。